

多重債務者相談受付状況(令和元年度上期)

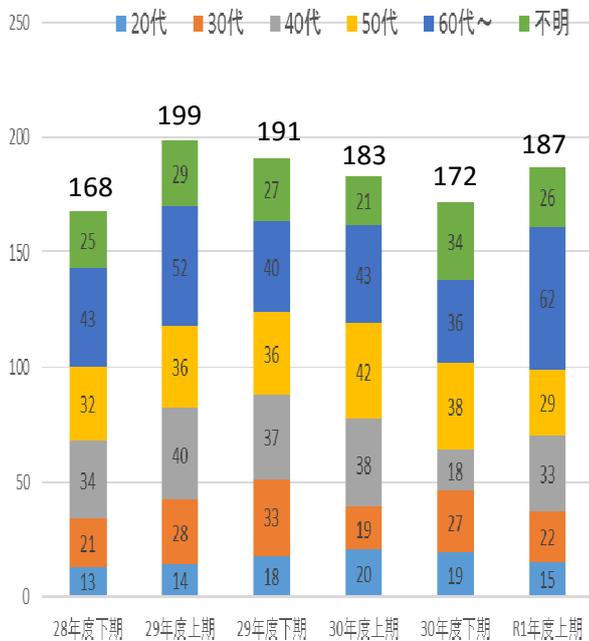


北海道財務局が受け付けた多重債務者相談について、令和元年度上期（2019年4月～2019年9月）の受付状況を取りまとめましたのでお知らせいたします。

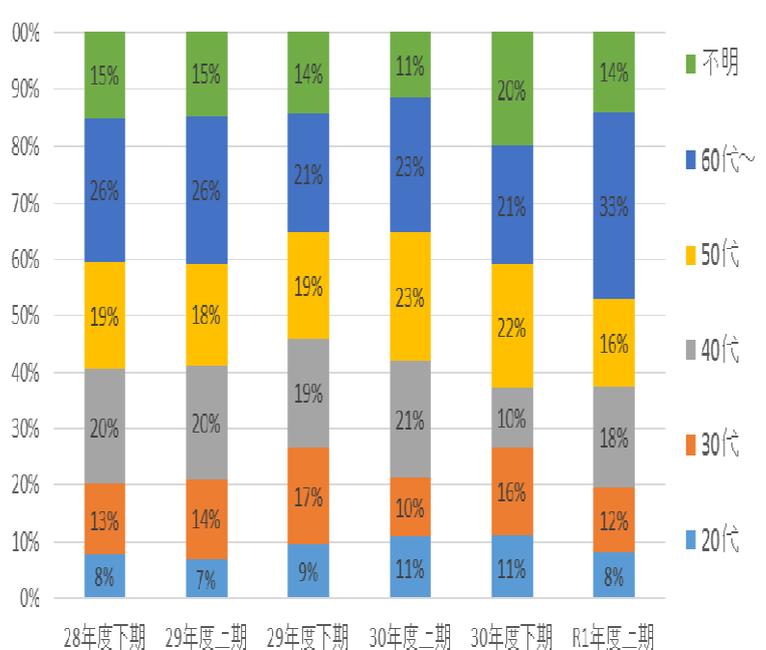
1. 令和元年度上期の概要

- 令和元年度上期の相談件数は187件で、前年同期（183件）と比べ**2.1%（4件）の増加**。
- 相談者の**年齢別では、60歳以上の相談者が全体の3割を超えて増加**。
- 相談者の**負債状況は、300万円未満の相談者が全体の約6割**を占めている。
- 借入のきっかけは、退職や転職による収入減や非正規雇用等による低収入を背景とした生活費などの借入や、衣料品や趣味等の商品・サービスの購入に伴う借入が全体の約50%を占めている。

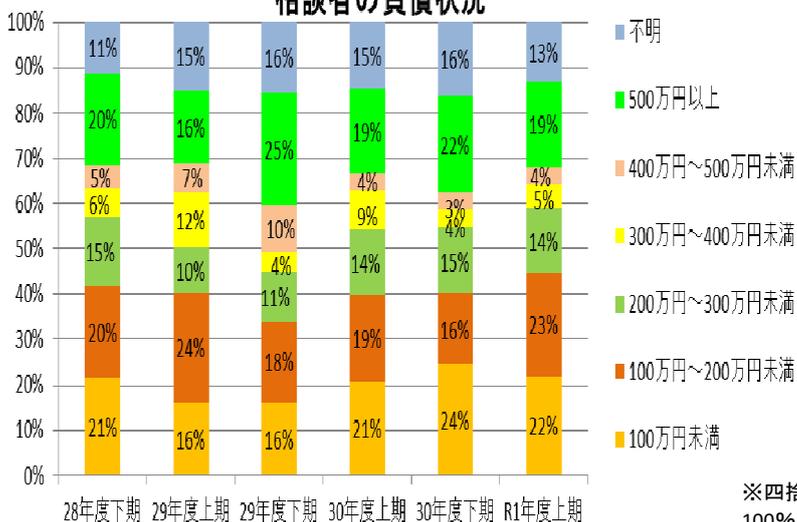
相談受付件数の推移



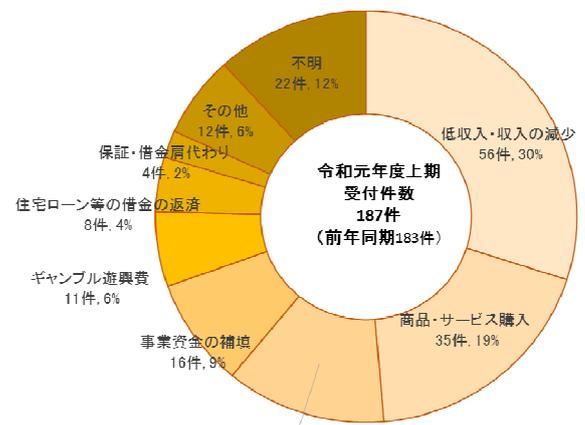
年齢別の割合



相談者の負債状況



借入のきっかけ



※四捨五入の関係から合計が100%にならない場合があります。

2.相談事例

【事例1：個人民事再生（50代 男性）】

○子供二人が私立大学に進学して学費等のため借入れが増えた。住宅ローンも10年以上の返済が残っている。これまで何とか共働きで返済してきたが、やり繰りができなくなった。住宅や自動車は手放したくない。

《当局の対応(助言)等》

- ・債務整理のメリット・デメリット（例えば、一般的にはローンが残っている住宅や自動車は手放さなければならない、個人民事再生の場合は、住宅ローンを除く債務を圧縮して返済できる場合がある など）を説明。
- ・相談者の要望により弁護士相談に同行（ケースワーク）。相談者は個人民事再生の手続きを選択。
- ・住宅ローン以外の借入を1/5に圧縮して3年返済とすることで現在の収入でも住宅ローンの返済が可能となった。また、自動車を手放し安価な中古車を購入し、今後の生活の目途が付いた。

【事例2：自己破産（60代 男性）】

○持病が悪化し仕事ができないため、1年半勤務している会社の退職を考えている。会社からは社宅を出るように言われている。会社からも借入れをしており、その返済を求められているほか、貸金業者からも借金している。税金の滞納もある。どうしたら良いか。

《当局の対応(助言)等》

- ・体調不良で就業が困難な状況では、まずは体調不良を改善しなければ債務整理の根本的な解決には結びつかない。早期に体調の改善が見込めないのであれば、まずは自己破産をした上で体調改善に取り組む方法があることを説明。
- ・税金は自己破産の対象債務ではないので、生活保護受給中の納税の猶予等について、税務担当者へ相談することを助言。
- ・法テラスの民事法律扶助制度を説明するとともに、当該制度の利用を勧め、弁護士の紹介を受ける。
- ・会社を退職し自己破産の手続きを進めるなか、生活保護が認められ、転居先も決まった。

【事例3：自己破産（30代 男性）】

○難病を抱え仕事が長続きしない。現在は、実家に住み、体調を見ながらの勤務。そのため収入が減少し、奨学金の返済のほか、実家（家業）への支援や自分の生活費の補填で借入れが多額となる。また、奨学金の連帯保証人は親族であり、迷惑は掛けたくない。どうしたら良いか途方に暮れている。

《当局の対応(助言)等》

- ・実家への支援の前に自分の生活を確立させるために、債務整理の検討を勧める。
- ・実家の支援を続けると両親と共倒れになる心配があり、転居・独立の検討を勧める。
- ・債務整理の4つの方法を説明。仕事が安定しない状況が今後も見込まれる場合は、返済は困難と思われるため、自己破産と生活保護の検討を勧める。
- ・自己破産の場合は、奨学金の連帯保証人に請求が及ぶことになるため、連帯保証人への事前の状況説明を勧める。
- ・相談者が抱えている疑問点や不明点を整理するとともに、体調の改善が優先すべき事項であることを説明し、生活保護を受給しながら体調面、精神面の治療に専念する方法があることを説明。
- ・弁護士に相談し、奨学金の連帯保証人の理解・協力も得て自己破産手続きを開始。
- ・現在は、生活保護の手続きも終わり一人暮らしを始め、心療内科に通院中。

☆多重債務に関するご相談等は、北海道財務局「多重債務者相談窓口（金融監督第三課）」まで！

電話番号：011-807-5144

受付時間：月曜日～金曜日（年末年始及び祝日を除く）9時～12時、13時～17時

札幌市北区北8条西2丁目 札幌第一合同庁舎11階